
有馬皇子

水乃ヘルギ

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

有馬皇子

【Nコード】

N0295A

【作者名】

水乃ヘルギ

【あらすじ】

小説ではないかもね。こつこつと書くとなぜか説明的になるんですわ。笑

有馬皇子。

従者が有馬温泉の出身だったから、有馬とつけたらしい。

………うおお！　なんて単純なんだ！　古代は。

さて、これからお話しする物語は、天武と有馬が対立し、立場の弱い天智がいて、というもの。

結果だけを追求すれば、有馬皇子は悪くなかったように思うんですねえ、これが。

有名な、

「赤兄あかえに聞け。さすれば、すべてわかるう」

蘇我赤兄。

彼はいつたい、なぜ有馬を裏切る人物としてでてきたんだろう？
調べたつもりなんだけど………。

………
わかったことは、天武天皇が絡んでいたことくらいだった………。

井上靖が額田王書いたけど、うう、有馬皇子、切なすぎ！

私は昔、神官の資格を取るために、ひたすら神道学などを学んだんですが、いやー、なんかだめ。

皇學館と國學院大學とって、その神道学科という場所を受験したんですが、あのころはドイツ語も学びはじめで、受験対象としてはちよつと学力不足だったせいかな、ちよつとアウト。

国学院ならドイツ語はできました。

でも皇學館は英語！　がーん。

英語、実は読めません。

ドイツ語できるんだから英語もできるだろうって、それは器用な人間に対して言う言葉ですな。笑
私は不器用にしか生きられないのさつ。はっはっは。
そんなわけで、自分の力でしか神道を学ぶことができず、あせりました。

今は哲学科です。

そんな私の書く古代日本。
ぜってーうそくせーから 笑。

有馬皇子は、孝徳天皇の息子。

こまかいくだりは、無論詳しくないけれど、要するにこの時代はよそからの侵略を防ぐために、戦ってもいたし、蘇我と物部の争いも少し昔にあつて、とにかく荒れていたってことらしい。

そのうえ、内乱。

中大兄皇子（葛城皇子）が蘇我入鹿の首を、皇帝、じゃなかった皇極天皇のまえではねたことから、はじめた事件も……..
いやはや、ほとんど忘れてしまつて知識が追いつかない。

このころ、つまり天智天皇が治めるころには、宗教の暴動もやんでいた。

少し話を飛鳥時代に戻し。

思ふんですが、なんで宗教は戦争を巻き起こすのでしょうか。

神のせいにするのはどうかと思うわけですが……..
いないこともないんじゃないかなあ。

インド思想や中国思想を取り入れてきた聖徳太子と、古来からの神道を守り続ける物部。

二つの思想はぶつかり合い、結果として融合。

しかしこの融合には問題があった。
神道に道教、儒教を取り入れた結果、本来の神道として成り立たないものと、なってしまったわけです。
これ以降だと度会家行（この人の大ファン）の時代にまでとぶので、ストップ。

さて、舒明天皇が崩御した後、かろのみこ軽皇子つまり孝徳が即位した。
しかし、孝徳天皇はお飾りであった。

いや、多くの天皇がそうであったように、彼もまた、傀儡の一人だったんですな。

踊らされたってわけ。

そして病に臥せった孝徳を見舞うこともせず、葛城皇子はしらんぷり。

孝徳天皇は幼い有馬にこう告げたのだった。

「お前の母も葛城のものだし、吾あは、さみしい……」

もしかしたら、ここで有馬は復讐を考えたかもしれない。

父を見放して見殺しにした、葛城たちに対して。

だから、年頃になった有馬は、蘇我赤兄とともに、クーデターを起こそうとしたんだろうと。

じつは葛城、皇位を狙ってはいいたものの、孝徳天皇を殺してしまつたために即位できずにいたわけよ。

見殺しにしたとか言われてね。
そのせいで、葛城は赤兄に金握らせて、
「たのむ。有馬をはめてくれ」
とでも言ったのではなからうか。

「赤兄」

有馬が相談をするために あずまや にやってくる。
そして赤兄は、葛城に仕込まれたとおりの計画を持ち出す。

………というのが、一説目。

二説目は、天武が絡んでいること。

この事件の背景にはなぜか、天武が出てこないのである。
入鹿事件に関してもそうだし、いったいなぜか、ということ考
えてみたことあるだろうか。

それは、有馬殺害、入鹿殺害の首謀者が、天武だった、という仮
説を立ててみたので読んでほしい。

以前から仮説を立てるたび出すのが、天武ユダヤ人説。
ユダヤ人は商法などにも精通しており、非常に冷酷な面もある。
だから、キリストを殺したときも残酷な方法をとったのだろう。
天武の性格から考えてもそうで、有馬を殺すときも抜かりない。
そのため、歴史から自分の汚い部分を消してしまったのだ。

それは、わざと天智を即位させることによって、自分の即位を正当化できるからであった。

その前に邪魔者は消さねばならない。

目の上のたんこぶ、それが有馬だった。

しかしただ殺しても正当化を主張できないので、策を練る。それが赤兄の利用。

天武天皇は、いや大海人皇子は武勇にすぐれ、学術も達人というが、実は乱暴なだけだった。

ヴァイキングを知っていたら、たぶん理解が早いかもしれない。ノルウェーやデーンのヴァイキングは策略家であり、乱暴であった。

天武のやり方も実は似ている。遠征もしたし。

思うに、吉野籠りをしたのは、有馬殺害からこうむる災いを避けるためだったのではないか。

全部兄貴のせいにしちやえと。ある意味、ひどいな。

実は天智と天武は兄弟ではなく、他人だったと仮定できた。

天智は朝鮮系か何かで、天武がユダヤとなれば当然、対立もあった。

しかし天武は皇極たちに取り入って、何とか息子にしてもらえたのだろう。

でなければ、天智がなぜ妹をふたりも天武にあてがったのか、理由に納得いくはずがない。

ふつうはひとりが相場だった。

それにいくらなんでも、血が濃すぎる。

天武がユダヤ系ならば、そのことも承知していただろうから、実の姪などほしがるはずがなかったのでは？

ユダヤ社会では近親婚は禁じられていたのだから。

その渦中に引き込まれたのが、かわいそうな有馬だったということ。

有馬は天武から恨まれないように、狂ってごまかそうとしたが、

天武は狡猾で鋭敏な戦士。

「そのようなことで、朕は騙せない」

有馬はここで観念したのだろうか。

「はめましたね」

有馬は嘲笑するように笑う。

自分への嘲笑……。

天武は情けをかけてやり、歌わせたり干し飯を与えたとあるが、実際は違っていた。

「俺が次期天皇だ、くやしいだろう。お前の父を見殺しにしたのが俺であることを思えば、お前はただの犬死を食らった、ガキに過ぎぬ。十九の人生を、せいぜい惜しみながら逝くのだな」

昔は天武が好きだったのに、やっぱりいやな人だったんだな。

伊勢神宮を建てた理由もわかつちやったし……。

呪術的な意味合いが深いダビデ。

あの星の形、じつは有馬とかを殺してしまったことの恐れというか、そういうのもあったんじゃないかな。

いろいろ知ってしまうと、結構つらいもんが……。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0295a/>

有馬皇子

2008年11月7日06時35分発行